

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00297

研究課題名（和文）三木露風の未公開資料の公開・整理及び基礎的研究

研究課題名（英文）Basic research on Rofu Miki's unpublished materials and organizing them for public access.

研究代表者

近藤 健史（KONDO, Kenshi）

日本大学・通信教育部・研究員

研究者番号：20195895

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：三木露風は「活躍は大正15年までで第一線を退いた」とされ、その後は低い評価のまま近代文学史から忘れ去られてきた。その要因の一つは大正15年以降の作品が少ないことにあった。そこで露風の再評価を目的に未公開作品や資料の基礎的研究を行った。

長い間散逸していた地方紙『山崎新聞』（1915年～1939年）で埋もれていた多くの未公開作品（短歌、俳句、随筆、紀行文）や関連する自筆ノート、草稿、書簡などを蒐集しデジタル化して保存・整理・公開した。露風の石川啄木観を示す紀行文、露風と宮沢賢治の交流を初めて明らかにする書簡控え、トラピスト修道院時代の随筆「トラピストのクリスマス」の草稿などの新発見があった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

三木露風に関する資料は、たつの市の霞城館と三鷹市に分散して寄託されている。露風が寄稿した『山崎新聞』は、創刊者の親族と創刊地の宍粟市立図書館に分散されて全発行号の閲覧は不可能な状態であった。その資料をデジタル保存して体系的に分類し分析研究したことに学術的意義がある。また露風の未公開作品、宮沢賢治や石川啄木に関する新資料発見により新たな視点による研究を提起した。

社会的意義としては、協力をいただいた宍粟市、たつの市において、研究成果をシンポジウムや講演会で報告した。また新資料発見の露風と宮沢賢治の交流はNHK神戸や神戸新聞、岩手日報で、露風の石川啄木観は中日新聞で紹介されて露風研究が普及した。

研究成果の概要（英文）：Rofu Miki has been said that his creative activities were by the end of Taisho era: thereafter he has been largely forgotten in the history of modern literature with low evaluation. One of the factors was the scarcity of his works published after the 15th year of Taisho. The aim of our research was to reevaluate Rofu Miki with his unpublished works and materials.

We have collected many unpublished works buried in the long-lost local newspaper "Yamazaki Shinbun" (1915-1939), specifically tanka, haiku, essays, travelogues, related handwritten notes, drafts, and letters. We also discovered handwritten letters revealing Miki's views on Takuboku Ishikawa, his interactions with Kenji Miyazawa, and essays Torapisuto no Kurisumasu "Christmas at the Trappist Monastery" from his time at the Trappist monastery. We digitized them all for preservation, organization, and public access.

研究分野：日本近代文学

キーワード：三木露風 未公開作品 山崎新聞 新資料研究 蒐集・整理・公開 新視点による研究

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

三木露風が寄稿していた地方紙『山崎新聞』(兵庫県宍粟市山崎町、大正4年・1915年8月31日～昭和14年・1939年5月25日発行)の存在を知り調査した。公的機関に保存されず長い間埋もれたままであった。平成29(2017)年に新聞発行者親族宅と宍粟市立図書館に分散された状態であったことが確認され、初めて全発行号の9割程が揃い全体的な閲覧が可能となった。

掲載されていた露風作品の大半は、未公開の短歌・俳句・随筆・評論・紀行文などであり分類や作品研究がされていないことが判明した。また関連する露風の自筆創作ノートや資料は、露風ゆかりのたつの市の霞城館や三鷹市に未公開の状態で大いに所蔵されていることを確認した。

そこで傷みの激しい『山崎新聞』の保存、露風作品の分析・整理、関連資料の調査・蒐集・体系的整理などの基礎的研究と公開の必要性を感じ、関係機関や地元団体の協力を得て取り組みを開始した。

2. 研究の目的

北原白秋と並んで「白露時代」を築いた象徴詩人の三木露風は「活躍は大正15年までで、この年をもって第一線を離れた」「以後の露風は宗教詩人となり作品の魅力は乏しく」などと評価されて以来、日本近代文学史から忘れられてきた。大正15年を境目とする低い評価が生じる要因は、詩壇を離れた以降の大量に残された未公開作品と資料を正確に把握しなかったことにあった。これらの作品や資料の調査・研究は、露風の文学構想や創作活動、友好関係を明らかにするために重要である。

そこで昭和2年からの作品が掲載されている『山崎新聞』を始めとして、大正15年以降の未公開作品と資料を調査・蒐集・整理・公開し、露風の文学作品とその創作活動を検証することで露風を再評価することを目的とした。

3. 研究の方法

1年目は基礎的作業として『山崎新聞』の発行地である兵庫県宍粟市、新聞発行者親族で姫路市在住の山下家、たつの市の公益財団法人「霞城館」において現地調査をして作品や資料の蒐集、デジタル撮影を行うという方法で研究をする。2年目は、三鷹市芸術文化振興財団も加えた資料調査により蒐集した資料の解読、文字起こし、デジタル化して保存、分析研究という方法で目録の作成等の基礎的研究を行う。3年目は新資料の調査・蒐集・分析等の研究方法を継続しつつ「『山崎新聞』に掲載された露風の作品・関係資料一覧」を作成・公開する。

現地の調査では、『山崎新聞』に発見者、宍粟市社会教育文化財課、山崎郷土研究会会長、霞城館館員、露風の母「碧川かたを朝ドラの主人公にする会」などの協力を得て行った。その間にも新資料発見や研究成果を論文や学会で発表し、資料蒐集地で開催のシンポジウムや公開講座において成果を報告した。

4. 研究成果

(1) 傷みの激しい『山崎新聞』(日本で唯一現存、全号9割)をデジタル化して保存、露風

の作品を抽出し保存、作品を全体的に分析し、関連する草稿や資料も蒐集して実態を明らかにした。

『山崎新聞』に掲載されている露風の作品は、昭和2(1927)年6月6日、594号「東京の春と夏と(一)」から昭和5(1930)年12月21日、788号「秋草集 18首」までである。短歌475首(67回連載)、俳句608句(75回連載)、随筆10作品(28回連載)、評論6作品(15回連載)、紀行文2作品(90回連載、詩9篇、短歌33首、俳句37句を含む)である。その原稿は霞城館や山下家、霞城館に創作ノート「アルス」が所蔵されている。

それらの作品については、号数、発行年月日、作品の題名、作品数の順に分類し、草稿の所蔵館を示した『『山崎新聞』に掲載された露風の作品一覧』を作成して、2020年「現代によみがえる三木露風と『山崎新聞』」『日本大学通信教育部研究紀要』33号に論文として掲載し、また「三木露風研究会ホームページ」で公開した。

(2) 注目されずにあった大正15年以降の未公開作品と資料(直筆の草稿・創作ノート・日記・書簡メモ)を対象として、網羅的に調査・蒐集し体系的に整理し公開した。

『山崎新聞』に関しては、紀行文の東北巡行の旅、四国巡行の旅における行程と講演内容について地方新聞記事や露風の未公開草稿も加えて初めて明らかにして2021年「新聞記者たちの見た三木露風 四国巡行の旅」『日本大学通信教育部研究紀要』34号に発表した。また関連する資料としては、霞城館所蔵の「母が再婚した碧川家との交流」を示す書簡6通、慶応大学病院に入院中に山崎新聞社宛に送った日付と病室番号が記してある封筒、東北巡行の旅立ち事情を示す「秋田市天主堂ライネル教区長宛」の書簡、三鷹市所蔵では東北巡行の旅において盛岡で知人に贈った作品の草稿(短歌12首・便箋4枚)、秋田県で詠んだ鹿角の短歌10首・俳句4句、毛馬内の短歌5首・詩1篇(ダイトB42枚)、大湯の短歌19首・俳句13句など、露風の文学構想を理解するための未公開直筆草稿を多数発見した。

(3) 友好関係や創作活動に関する新資料発見があった。例えば『山崎新聞』掲載の紀行文に書かれた露風が語る石川啄木観、霞城館所蔵の露風と宮沢賢治の交流を初めて示す書簡控(賢治から『春と修羅』を贈呈された返信)、露風のトラピスト修道院生活を示す随筆「トラピストのクリスマス」、詩人露風を支えたなか夫人の手紙や歌集などである。これらの研究成果を学会で口頭発表したものとしては2022年「北海道における三木露風と愛妻なか」東アジア日本語教育・日本文化研究学会2022年度国際学会(オンライン)と2023年「三木露風と石川啄木」東アジア日本語教育・日本文化研究学会2023年度国際学会(日本大学)がある。また論文は、2022年「三木露風と宮沢賢治の文学的交流」『日本大学通信教育部研究紀要』35号、2023年「三木露風となか夫人 詩人露風を支えた愛妻モニカ」『日本大学通信教育部研究紀要』36号、2024年「三木露風とトラピスト修道院 露風と教え子たち」『日本大学通信教育部研究紀要』37号、2024年「三木露風が語る石川啄木」『国際啄木学会盛岡支部会報』32号に掲載した。

(4) 研究資料を提供した地域で講演としては、2022年にたつの市で科研費シンポジウム「再発見 三木露風・母かた・妻なか」を主催して「再発見 露風を支えた愛妻モニカとその歌」を講演、2022年に宍粟市の「宍粟市学講座」で「文学の郷山崎 三木露風と山崎新聞」を講演、2022年に北海道北斗市観光協会主催「赤とんぼ勉強会(応用編)」で「三木露風の函館・北斗市におけるエピソード」を講演(オンライン)、2023年たつの市主催のシンポジウム「露風生誕の地と赤とんぼ誕生の地をかたる」で「トラピスト修道院時代の三木露風」を行い、研究成果を還元した。

また未公開資料の発見がマスコミで報道・公開されたものは、露風と石川啄木の交流について『神戸新聞』2021年8月22日(朝刊第1面・25面)、『岩手日報』2021年8月31日(朝刊第15面)、「NHK神戸放送局 Live Love ひょうご」2021年10月8日、『読売新聞』(東京本社版)2021年10月17日(朝刊32面) 同紙(大阪本社版)10月17日(朝刊第37面)、『神戸新聞』2021年11月5日(朝刊第28面)、トラピスト修道院における随筆について『北海道新聞』2021年11月30日(夕刊第7面)、『北海道新聞』2022年1月24日(朝刊第21・22面)、『山崎新聞』に関して『神戸新聞』2023年2月2日(朝刊第16面)、シンポジウムに関して、『神戸新聞』2022年10月29日(朝刊第26面)、『神戸新聞』2023年11月28日(朝刊第22面)、石川啄木について『中日新聞』2024年1月13日(朝刊第13面)などであり、研究成果を広く公開した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 近藤健史 | 4. 巻 32 |
| 2. 論文標題 三木露風が語る石川啄木 | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 国際啄木学会盛岡支部会報 | 6. 最初と最後の頁 138-148 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 近藤健史 | 4. 巻 37 |
| 2. 論文標題 三木露風とトラビスト修道院 露風先生と教え子たち | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 日本大学通信教育部研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 21-40 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 近藤健史 | 4. 巻 36 |
| 2. 論文標題 「三木露風となか夫人 詩人露風を支えた愛妻モニカ」 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 日本大学通信教育部研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 3-24 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 近藤健史 | 4. 巻 35 |
| 2. 論文標題 三木露風と宮沢賢治の文学的交流 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 日本大学通信教育部研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 43 - 60 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 近藤健史 | 4. 巻 24・25合併 |
| 2. 論文標題 三木露風研究の現状と課題 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 東アジア日本語教育日本文化研究 | 6. 最初と最後の頁 149 - 162 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 近藤健史 | 4. 巻 34 |
| 2. 論文標題 新聞記者たちの見た三木露風 四国巡講の旅ー | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 日本大学通信教育部研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 33-47 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件)

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 近藤健史 |
| 2. 発表標題 三木露風と石川啄木 |
| 3. 学会等名 東アジア日本語教育・日本文化研究学会 (国際学会) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 近藤健史 |
| 2. 発表標題 北海道における三木露風と愛妻なか |
| 3. 学会等名 東アジア日本語教育・日本文化研究学会 (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 近藤健史 |
| 2. 発表標題 三木露風研究の現状と課題 |
| 3. 学会等名 東アジア日本語教育・日本文化研究学会（国際学会） |
| 4. 発表年 2021年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|--|
| <p>近藤健史 講演「三木露風の函館・北斗市におけるエピソード」北斗市観光協会、2022年 近藤健史「三木露風の童謡『赤とんぼ』」『舎人倶楽部』敬文社、2022年 近藤健史「二つあった雑誌『女権』」『碧川かた生誕百五十年・没後六十年記念よみがえる碧川かた発行「女権」五月号』2022年 近藤健史「再発見 露風を支えた愛妻モニカとその歌」、科研費シンポジウム「再発見三木露風・母かた・妻なか」2022年 近藤健史 講演「文学の郷山崎 三木露風と山崎新聞」『宍粟市学講座』2022年 近藤健史 基調講演「トラビスト修道院時代の三木露風」、シンポジウム「露風生誕の地と赤とんぼ誕生の地をかたる」2023年</p> |
|--|

| | | |
|---------------------------|-----------------------|----|
| 6. 研究組織 | | |
| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| | |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|